

新聞投書の文章

—統括が行われている文の分析—

古 本 裕 子

1. はじめに

本研究は、新聞投書の「統括¹が行われている文」(永野1986)を分析する²。統括が行われている文とは、筆者の主張が表れている文のことである。まず、統括が行われている文の主張、つまり表現意図が同類のものを集め、その形式にはどのようなものがあるかを見る。

本稿で分析するのは、「自分以外の他者に行為を要求する」「自分の行動について決意・希望を述べる」という二つの表現意図である。どちらの場合でも、同種類の主張をする場合に、典型的な形式があることを見る。そして、それ以外にもいろいろな形式があることを観察する。

現代社会で、自分の考えていることを適切な文章にして相手に伝えることは、学生としても、社会人としても必須のスキルである。新聞投書は400字程度で自分の意見を主張するというもので、採用された文章は多くの投稿の中から採用されたものである。アマチュアの書き手が目標とする文章の一つと考えてもよく³、分析の価値があると考ええる。

新聞の投書の文章を分析し、その主張のしかたを意識化することによって、文章が効果的に楽に書けるようになる可能性がある。また、よい文章の書き手となるためには、同じ表現意図を表す場合に、多くのパターンを知っていることが重要なポイントであろう。

2. 先行研究

2.1 文章論の研究

佐久間(1990)は「文章や段落全体の内容をまとめる表現の働きを統括機能」といい、「文章全体をまとめる統括機能のある段落を中心段落」と呼んでいる。そして、永野(1986)は文章中のどの位置に中心段落があるかによって、文章を「頭括式」、「尾括式」、「両括式」、「中括式」、「隠括式」の5つの構造類型に分類している。

段落の中であって、段落の話題を提示する文は中心文(野村1990)という。中心段落の中の中心文は、その文章全体を統括する働きを持つと考えられる。本研究では永野(前述)に習い、これを統括が行われている文と呼んで、その表現意図を分類する。

統括が行われている文を分類するとき、日本記述文法研究会・仁田義雄(2003)が行った「モダリティ」の分類を参考にする。これは「表現類型のモダリティ」(増岡 1989)や「発話・伝達のモダリティ」(仁田 1989)と同系の分類である⁴。ここでは「モダリティ」とは、「命題が表す事柄的な内容に対して、話し手が発話時においてどのようなとらえ方をし、それを聞き手にどのよう

な伝え方をしようとしているのかという、文の述べ方を決定する」働きをしているものと定義されている。次の表1に仁田ら(2003)の分類の概略をまとめる。本研究と仁田ら(前述)との違いは、4.3に述べる。

表1 仁田ら(2003)のモダリティの分類

モダリティ	下位分類	例
表現類型のモダリティ	叙 述	平叙文
	疑 問	疑問文
	意 志	しよう ~つもりだ 動詞辞書形
	勧 誘	しよう しようか しないか
	行 動 要 求	命令：しろ しなさい 依頼：てくれ てください てくれないか てもらいないか てもらえないか して てほしい てもらいたい 許可・勧め・助言：お~ください たら といい 方がいい ことだ 禁止：するな
	感 嘆	略
評 価	必 要	といい ばいい たらいい 方がいい べきだ なくてはいけない ものだ ことだ ざるを得ない ないわけにはいかない しかない
	許 可 ・ 許 容	てもいい
	不 必 要	なくてもいい ことはない
	不 許 可 ・ 非 許 容	てはいけない
認 識	略	述語の言い切り だろう ようだ 思う
説 明	略	のだ わけだ ものだ ことだ
伝 達	略	丁寧体 終助詞

注) 筆者のまとめによる。認識のモダリティ以下は、大幅に略してある。

新聞の投書についての研究には木戸(1992)、日本語学習者と日本語母語話者の作文の分析には伊集院(2004)があるが、文章全体を統括する中心段落の中心文、本稿でいう統括の行われている文を分析したものはない。

3. 研究の方法

分析するのは、朝日新聞朝刊(2004年8月-9月)の読者のための投書欄「声」に採用された投書で、200編を無作為に取り出した。テーマ特集の投書は、他の投書と性質を異にする場合が多いため、分析対象から除いた。

4. 結果と考察

4.1 統括が行われている文の位置

まず、200の投書から「統括の行われている文」を取り出した。そのうち、168の文章が主張文と認められた。

文章の初めに統括機能があるのを「頭括式」、終わりにあるのを「尾括式」、文章の中間にあるのを「中括式」、複数箇

表2 統括が行われている文の位置

統括の型	数	割合
尾括式	146	86.9%
散括式	13	7.7%
中括式	8	4.8%
頭括式	1	0.6%
合計	168	100%

新聞投書の文章

所あるのを「散括式」とすると、分析した投書の統括が行われている文の位置は表2のようになった。

統括が行われている文の位置は尾括型が86.9%で、ほとんどの場合は文章の最後の段落にあった。最初に、事件や出来事を紹介し、最後にそれに対する自分の意見をまとめて終わるとというのが一番多いパターンであった。

4.2 統括が行われている文の主張の種類

次に、統括が行われている文の主張の種類を分類した。

4.1で述べたように、統括が行われている文は、ほとんどが文章の一番最後の段落にあり、一つであった。一つの文章の中に統括を行っている文が複数出てくる場合は、一番重要と思われるものを選んだ。

筆者の主張が述べられていると判断したのは168編であるので、その統括が行われている文も168ある。主張の種類は、表3に示した。自分以外の他者に対してなんらかの行為を要求するもの(39.0%)が一番多く、次には自分の行動について意志や希望を述べるもの(20.0%)が続いた。その他には、相手の悪いところを非難したり、提案したりするものがあったが、これらの分析は次に譲る⁵。

主張文と認められなかった32の文は、出来事に対する感慨を述べていたり、思い出を述べているもの、または統括の行われている文がはっきりしないものであった。

表3 投書の統括が行われている文の表現意図の種類

	表現意図	投書数	割合	文の数	
1	他者に行為を要求する	78	39.0%	168	主張文
2	自分の行動について意志や希望を述べる文の形式	40	20.0%		
3	その他の主張文	50	25.0%		
4	主張文以外	32	16.0%	32	その他
	合計	200	100.0%	200	

4.3 「モダリティ」(仁田ら 2003)と本稿の分類との違い

統括の行われている文の例を下にあげる。1～3までは、どれも自分以外のだれかに行動を要求している文で、3つの文の表現意図に大きい違いはないと判断して、一つのグループに入れる。

1. そろそろ日本が本当の意味で豊かであることを立証して欲しい。
2. 私たちの訴えていることに少しでも耳を傾けてほしいのです。
3. イラストなどで掲示してほしいと思います。

仁田ら(2003)の「モダリティ」では(表1参照)、1.の文末「～てほしい」は「叙述のモダリティ」にも「行動要求のモダリティ」にも記述がある。2.は文末の「のです」によって、「説明のモダリティ」になる。3.は「思います」が文末である。「来ると思います」というような場合、「認

識のモダリティ」に分類する場合もある。しかし、これら1から3の文は「ほしい」という形式が書き手の表現意図を一番よく表していると考えられる。このため、本研究で分類にあたって注目したのは文末の部分ではあるが、必ずしも一番最後の文末の形式で分けているわけではない。

4.4 他者に行為を要求する

分析した統括の行われている文の中では自分以外の他者に何らかの行為を要求するという表現意図が、一番多かった。自分以外の他者とは、政治家など特定の個人である場合もあるが、世の中一般の人みんなである場合も多い。いずれにしても、他者に何らかの行動を要求したり、社会などがそうなることを望んだり、何かをやめさせようとする表現意図の文である。

取り出した文は、なるべく1文全部抜き出し表示した。しかし、中には長いものもあったため、単文の形で取りだし、省略した部分を～で表示した。重文の前の部分が取り出された例は全くない。文の後にある数字はその投稿が載っていた日付である。

4.4.1 必要・禁止

このグループの表現は、④の「のみ」以外は評価のモダリティ（仁田ら 前述）に入っている。書き手が相手に、ある行動をすることが必要だという評価を与えて、他者の行為を促している。自分の行動に対する評価にも使えるが、ここでは、自分以外の対象に要求しているものをまとめた。

このグループでは「するべきである」という強く他者に行為を要求するものが一番多く、「条件形+いい・うれしい・思う」が続いた。

①べき

- ・良識ある世界の人々は、声を大にして断固として非難すべきだ。10.31

②たら～（たらと思う・たらしい・たらうれしい・ばと思うなど、条件形のあとに「思う」や「いい」「うれしい」などが続くもの）

- ・この夏の体験をきっかけに子どもたちが天体に関心を持ってくれたらと思った。9.29
- ・子らのために良いことが広まれば、と思う。9.16

③ことだ

- ・～新しい仕事に取り組み、心身共に前向きに新しい自分を発見することです。9.16

④のみ

- ・関係者は早急な対策を立て、実行あるのみと強く思います。10.1

⑤必要（必要と考える・必要だ・必要を感じる など）

- ・多種多様な人に一定の能力を身につけさせるには、到達目標を設定するのも必要と考えます。10.4

⑥大切

- ・～日頃から家族ら身近な人達と話し合っ備えることが大切だと思う。9.12

⑦てはならない

- ・日本の中に孤島をつくってはならない。10.27

⑧ものだ

- ・みだりににくっつけたり、つぶしたりするものではない。10.4

4.4.2 依頼

このグループの形式は、すべて、行為要求のモダリティの依頼の項目に入っている（仁田ら2003）。一番多かったのは、「てほしい」とそれに「思う」「ものだ」などの付属物がついたものである。この類の文末は全部で18ある。今回の調査で得られた形式の中で一番多く、次の「てください」とともに、依頼の意図を表現するときに使われる典型的なパターンであることが分かった。「てもらいたい」は、「たい」という書き手の願望を伝えるものであるが、ここでは全体としての表現意図は依頼表現になっている。

①てほしい（てほしいと思う・てほしいと願う・てほしいものだ）

- ・そろそろ日本が本当の意味で豊かであることを立証して欲しい。10.31
- ・特徴や実績をホームページに積極的に公表してほしい。10.29
- ・NHKはもう一度原点に立ち返り、職員教育の徹底を図り、二度とこのような不祥事を起こさないで欲しい。9.28
- ・間違っても米国のごり押しを受け入れないでほしいと願っています。10.2

②てください

- ・色々な仕事の職人さん、イチローさんのような気持ちで、仕事一筋に頑張ってください。10.30
- ・あなたがいなくなれば悲しむ人がいることを忘れないでください。10.22

③てもらいたい（ていただきたい・てもらいたいものだ）

- ・白寿の祝いは盛大にしてもらいたいと思っている。9.28
- ・長官の訓辞が絵に描いた餅にならないよう、司法界全体で考えていただきたいものである。10.29

4.4.3 願望（動詞）

このグループは、書き手が相手は何かをすることを願っていることを直接動詞で表現している。しかし、相手に直接何かをするように言っているのではなく、書き手の願望を記述しているだけであるので、相手に対する強制力は軽減されている。中には、「たいと願う」という形式になって、さらにそれが書き手の願望であることを示しているものもある⁶。

これらの表現は、全部で26と非常に多く、これも自分の願望を述べながら、相手に行動を要求する典型的な形式であるといえよう。

モダリティの分類からすると、「たい」などのついていない裸の動詞の形式であれば、平叙文として叙述のモダリティ（仁田ら 前述）に入れられているため、今まで「他者に対する行為要求」

古 本 裕 子

を表現している文としては分析されてこなかった形式である。

⑨は「～を」の形で後の動詞が省略されていると考え、このグループに入れた。

①願う

- ・腐敗体質が克服されることを願います。10.26
- ・生徒の一番近くにいる先生方の誠実な「受け止め」を心からお願いしたい。10.2

②望む

- ・コネが幅を利かす社会でなく、正当な競争ができる社会を望みます。10.27
- ・教科書的な事実の暗記ではなく、自然観察や実験など素朴な体験を大事にする理科教育を望みたい。10.6

③期待する

- ・市民と新聞が対話をしながら、よりよい新聞を作って頂けることを期待している。10.19

④切望する

- ・今後は、夜中の防災訓練も実施するよう切望する。9.8

⑤祈る

- ・お二人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。9.10

⑥希望する

- ・苦痛を伴う長時間の待ち時間の解消への妙薬を切実に希望する。9.7

⑦待つ

- ・賢明な首相の決断をお待ちします。10.29

⑧要望する

- ・海水導入を含めた抜本的な見直しを要望します。10.6

⑨～を

- ・今こそ、この輪の広がり。10.26

4.4.4 勧誘

他者に行為を要求するという表現意図の中で、他者に何か行為をすることを誘う表現がある。この表現意図は全部で4つしかなく、そのうち3つが疑問文の形であった。疑問の形式は色々な表現意図を表すことができる。このように相手を誘う場合に、疑問形式を使えば相手が断る余地を残している。そのため、押しつけている印象を回避する効果があると考えられる。

①てはいかがでしょう

- ・進路を決める前に、アルバイトをしてみてもはいかがでしょう。10.6

②じゃないか

- ・テレビ中継があっても、歯を食いしばって見るのを我慢しようじゃないか。9.12

③ましよう

- ・野球が好きな皆さん、どうか長い長い先を見て、選手会を支持しましょう。9.8

4.4.5 他者に行為を要求する表現 まとめ

4.2で投書に、自分以外の他者に対して行為を要求したり、非難したりするものが多いことを見た。この種類の投書が多い理由は、一つには新聞社の投稿採択についての考え方が反映されていると見るべきである。投書を送る側の人にとっても、新聞投書欄は、一般庶民が、社会や政治に対して、直接不満や要求を表現でき、効果が期待できる数少ない方法の一つと言える。

この場合、何かを要求したり、非難したりする相手は、文章の読み手というよりも、社会、政治を動かしている人で、大きい力を持っている。しかしたいていは書き手のことを知らない場合がほとんどであろう。直接相手に書いて届けるわけでもない。書き手が、もし強く非難したり、要求したりしたとしても、相手がダメージを受ける可能性も低いいため、このような主張が多いのではないかと思われる。

表4 他者に行為を要求する表現形式の頻度

4.4 他者に行為を要求する		計	78				
1 必要・禁止	①べき	5	19	3 願望（動詞）	①願う	8	26
	⑥たら	4			②望む	6	
	③ことだ	1			③期待する	3	
	④のみ	1			④切望する	2	
	⑤必要	3			⑤祈る	2	
	⑥大切	2			⑥希望する	1	
	⑦てはならない	2			⑦お待ちする	1	
	⑧ものだ	1			⑧要望する	1	
						⑧～を	
2 依頼	①てほしい	18	29	4 誘	①てはいかが	2	4
	②てください	7			②ようじゃないか	1	
	③てもらいたい	4			③ましよう	1	

しかし、その他者に行為を要求する表現としてどのようなものが使われているかを見てみると（表4参照）、なるべく相手に負担をかけない、表現が選ばれているのがわかった。願望を表す動詞、例えば「願う」などを使う場合や、希望を表現する「てほしい」などを使う場合が多い。これらは、はっきりと筆者の願望が表現されるが、書き手は願っているだけである。相手に対する強制力は弱いため、強すぎる印象を持たれない。これがこれらの表現が多用される原因と推察される。

4.5 自分の行動について意志や希望を述べる

分析した投書では、他者に対して行為を要求するものについて、自分の行動について意志や希望を述べる場合が多かった。以下にはその表現意図を表す形式を挙げる。

4.5.1 意志

自分の行動について意志を述べるという表現意図を表す形式には、さまざまなものが混在している。意志を表す文末「よう」の類の他に、動詞や名詞自体が直接意志を表しているもの、「なければならない」の省略形などである。

①-1 ~よう (~しょう)

- ・心から平和を祈っている友人に贈りましょう。9.11
- ・信頼できる主治医ができれば、家から飛び出し夢を実現しよう。9.6

①-2 ~ようと思う ~よう考える

- ・自分が毎日元気であることが、周りの家族も元気づけると分かり、これからも前向きに考えて頑張ろうと思いました。10.7
- ・~うまくつき合っていく方法を探ろうと、前向きに考えています。10.25

②動詞 (目指す 誓う)

- ・学校でも家庭でも頑張る自分を目指します。10.22
- ・山門の教えを実行あるのみと心に誓った次第である。10.25

③名詞

- ・私は裁判員に指名されても断る決意です。10.19

④~なければ

- ・ロックの音は悲しいけれど、「気をつけねば」と思った。10.31

⑤~べし

- ・電卓の数字を横目に、夫婦二人でつましく生活すべしとの思いに至った。9.16

⑥その他

- ・やる気になればできることもある。10.23

4.5.2 希望

自分の行動について希望を述べる文の形式はすべて「たい」の類である。しかし、「たい」が裸のまま出てきたのは24文中5文、20.8%に過ぎない。他は「思う」などの動詞や「ものだ」がいたりしている。

①-1 たい

- ・~自分の足でその癒しの空間を走破してみたい。10.20
- ・地裁決定の行方を期待を込めて見守りたい。9.6

①-2 たい (感謝)

- ・心からありがとうございます。9.28
- ・良く書いて下さったとお礼を言いたい気持ちです。10.20
- ・あの婦人に感謝したい。9.29

①-3 たいと思う

- ・子どもが次に出会う何かのために、もっと努力したいと思う。10.27
- ・半世紀前から引き継がれてきた先人たちの賢明な選択を今後もしっかりと生かしていきたいと思う。10.22
- ・テレビを消し、思い思いの本を手に、夜長を楽しみたいと思っています。10.1

①-4 たいと願う たいと話す

- ・一生彼とはともに仲良くしていきたいと願っている。9.29

①-5 たいものだ

- ・この経験をこれからの有意義な生活につなげていきたいものです。9.30

4.5.3 自分の行動について意志や希望を述べる文の形式 まとめ

自分の行動について意志や希望を述べる形式には様々なものがあることが分かった。しかし一番典型的な例は、「たい」に「思う」などの動詞や「ものだ」がついた形であることがわかった(表5)。この形は、単に自分の希望を述べている。例えば「水が飲みたい」と言っても、水を飲むと表明しているわけではないため、自分に対する強制力がない。読み手から見れば、ソフトな表現と言えるだろう。

表5 自分の行動について意志や希望を述べる文の形式

合計			40
1 意志	①よう	6	16
	②動詞	2	
	③名詞	2	
	④なければ	3	
	⑤べし	1	
	⑥その他	2	
2 希望	①たい	24	24

5. 考察とまとめ

以上新聞投書の統括が行われている文の表現意図と、それを表す形式を見た。「他者に行為を要求する」表現意図が一番多く、次に「自分の行動について意志や希望を述べる」場合が多かった。それぞれを表している形式には、前者が「願望を表す動詞」や「てほしい」、後者は「たい」の類が多かった。これらはいずれも、書き手の願望を表すだけであり、他者に対して強制的に何かをさせることや、自分の未来の行動を約束することを意味しない。その意味で、読み手に強すぎる印象を与える心配がない。新聞投書のような場合でもこのような配慮が働いていると見るべきである。

しかし、これ以外には非常に多くのパターンが存在することも分かった。多くの文章を書く場合は、同じ表現意図を表すのに、いくつもの中から選んで使えるようになることが必要だろう。そういう際に、この分類に表れてきたような表現を参考にすることができると思われる。

本稿では、新聞投書の中の一部を分類したにすぎない。モダリティ形式からみた分析や単純でない形式の分析は手つかずである。今後はこれらの文も視野に入れて分析を進めたい。

6. 参考文献

- 伊集院郁子・高橋圭子(2004)「文末のモダリティに見られる“Writer/Reader visibility”－中国人学習者と日本語学習者の意見文の比較－」『日本語教育』123号, 日本語教育学会編.
- 木戸光子(1992)「文の機能に基づく新聞投書の文章構造」『表現研究』50巻, 1-10. 表現学会編.
- 佐久間まゆみ(1990)「ケース8 文章の構造類型」『ケーススタディ日本語の文章談話』桜楓社
- 寺村秀夫(1990)『ケーススタディ日本語の文章談話』桜楓社
- 永野賢(1986)『文章論総説』朝倉書店
- 仁田義雄(1989)「現代日本語文のモダリティの体系と構造」『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄ら(日本記述文法研究会)(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 野村真木夫(1990)「ケース7 段落の構造類型」『ケーススタディ日本語の文章談話』桜楓社
- 古本裕子(1992)「疑問表現における問いかけの機能について」『ことばの科学』第5号、29-42
名古屋大学言語文化研究会
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 森山卓郎・安達太郎(1996)『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ6 文の述べ方』くろしお出版

¹ 永野(1986)は「『統括』とは、文章を構成する文の連続において、一つの文が意味の上で文章全体を締めくくる役割を果たしていることが言語形式の上でも確認される場合、その文の意味上形態上の特徴をとらえて文章全体構造における統一性と完結性を根拠づけようとする文法論的観点である」としている。

² 文章とは文がいくつか集まり、一つのまとまった考えを表すものを言うことにする。

³ 2004年9月31日の投書欄に記載された記事によると、9月の投稿総数は6062本で、採用されたのは1544本ということである。およそ4人に1人の割合でしか採用されていない。

⁴ 仁田ら(2003)は、文末の形式を基に分類しているのに対し、本研究では書き手の表現意図を基に分類している。

⁵ 勧誘の表現意図は「他者に行動を要求する」の中を含めた。

⁶ 「たいと願う」は仁田ら(2003)では「自分の行動について意志や希望を述べる」に分類されている。「願いたい」は「他者に行為を要求する」の「願望の動詞」に分類されている。